

2021年3月期 第1四半期決算短信〔日本基準〕(連結)

2020年8月5日

東

上場会社名 セガサミーホールディングス株式会社 上場取引所
 コード番号 6460 URL <https://www.segasammy.co.jp>
 代表者 (役職名) 代表取締役社長グループCOO (氏名) 里見 治紀
 問合せ先責任者 (役職名) 上席執行役員財務経理本部長 (氏名) 大脇 洋一 (TEL) 03-6864-2400
 四半期報告書提出予定日 2020年8月14日 配当支払開始予定日 —
 四半期決算補足説明資料作成の有無 : 有
 四半期決算説明会開催の有無 : 有 (アナリスト向け)

(百万円未満切捨て)

1. 2021年3月期第1四半期の連結業績(2020年4月1日~2020年6月30日)

(1) 連結経営成績(累計) (%表示は、対前年同四半期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属する四半期純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%
2021年3月期第1四半期	48,382	△33.5	△3,851	—	△4,099	—	△3,301	—
2020年3月期第1四半期	72,734	5.7	3,409	264.6	2,372	244.6	1,718	408.7

(注) 包括利益 2021年3月期第1四半期 △2,551百万円(—%) 2020年3月期第1四半期 △2,837百万円(—%)

	1株当たり 四半期純利益	潜在株式調整後 1株当たり 四半期純利益
	円 銭	円 銭
2021年3月期第1四半期	△14.04	—
2020年3月期第1四半期	7.32	—

(2) 連結財政状態

	総資産	純資産	自己資本比率
	百万円	百万円	%
2021年3月期第1四半期	454,190	289,583	63.1
2020年3月期	458,268	296,858	64.2

(参考) 自己資本 2021年3月期第1四半期 286,690百万円 2020年3月期 294,102百万円

2. 配当の状況

	年間配当金				
	第1四半期末	第2四半期末	第3四半期末	期末	合計
	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭
2020年3月期	—	20.00	—	20.00	40.00
2021年3月期	—	—	—	—	—
2021年3月期(予想)	—	—	—	—	—

(注) 2021年3月期の配当予想につきましては、現時点では未定とさせていただきます。

3. 2021年3月期の連結業績予想(2020年4月1日~2021年3月31日)

(%表示は、対前期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属する当期純利益	1株当たり当期純利益
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	円 銭
通期	277,000	△24.4	△15,000	—	△20,000	—	△17,000	△72.31

(注) 直近に公表されている業績予想からの修正の有無 : 有

※ 注記事項

(1) 当四半期連結累計期間における重要な子会社の異動 : 無
 (連結範囲の変更を伴う特定子会社の異動)
 新規 —社(社名)— 、除外 —社(社名)—

(2) 四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用 : 有

(3) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示

- ① 会計基準等の改正に伴う会計方針の変更 : 無
 ② ①以外の会計方針の変更 : 無
 ③ 会計上の見積りの変更 : 無
 ④ 修正再表示 : 無

(4) 発行済株式数(普通株式)

① 期末発行済株式数(自己株式を含む)	2021年3月期1Q	266,229,476株	2020年3月期	266,229,476株
② 期末自己株式数	2021年3月期1Q	31,138,854株	2020年3月期	31,138,238株
③ 期中平均株式数(四半期累計)	2021年3月期1Q	235,090,984株	2020年3月期1Q	234,734,952株

※ 四半期決算短信は公認会計士又は監査法人の四半期レビューの対象外です

※ 業績予想の適切な利用に関する説明、その他特記事項

・本資料に記載されている業績見通し等の将来に関する記述は、当社が現在入手している情報及び合理的であると判断する一定の前提に基づいており、その達成を当社として約束する趣旨のものではありません。また、実際の業績等は様々な要因により大きく異なる可能性があります。業績予想の前提となる条件及び業績予想のご利用にあたっての注意事項等については、添付資料4ページ「連結業績予想などの将来予測情報に関する説明」をご覧ください。

・当社は、2020年8月5日にアナリスト向けの決算説明会を開催する予定です。その模様及び説明内容(映像並びに音声)については、当社ホームページに掲載する予定です。

○添付資料の目次

1. 当四半期決算に関する定性的情報	2
(1) 経営成績に関する説明	2
(2) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明	4
2. サマリー情報(注記事項)に関する事項	5
(1) 当四半期連結累計期間における重要な子会社の異動	5
(2) 四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用	5
(3) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示	5
(4) 追加情報	5
3. 四半期連結財務諸表及び主な注記	6
(1) 四半期連結貸借対照表	6
(2) 四半期連結損益及び包括利益計算書	8
(3) 四半期連結財務諸表に関する注記事項	10
(継続企業の前提に関する注記)	10
(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)	10
(セグメント情報等)	11

1. 当四半期決算に関する定性的情報

(1) 経営成績に関する説明

	前年同期 連結累計期間	当第1四半期 連結累計期間	前年同期比	
			増減	増減率
	百万円	百万円	百万円	%
売上高	72,734	48,382	△24,352	△33.5
営業利益	3,409	△3,851	△7,261	—
経常利益	2,372	△4,099	△6,472	—
親会社株主に帰属する 四半期純利益	1,718	△3,301	△5,019	—
	円	円	円	%
1株当たり四半期純利益	7.32	△14.04	△21.36	—

遊技機業界におきましては、新型コロナウイルス感染症拡大の影響に伴う4月7日の政府による緊急事態宣言の発令や、各地方自治体による休業要請を受け、全国のパチンコホールが休業対応を実施いたしました。緊急事態宣言の解除後、パチンコホールは順次営業を再開しておりますが、当社においてはパチンコホールへの影響を考慮し、新作タイトルの販売を延期いたしました。また、5月20日に国家公安委員会より風適法施行規則の改正による旧規則機の経過措置期間の1年延長が決定されたとともに、業界14団体で構成されるパチンコ・パチスロ産業21世紀会において、検定及び認定期間が終了する予定であった旧規則機の段階的な撤去が決議されております。

エンタテインメントコンテンツ事業を取り巻く環境としては、コンシューマ分野（前期までのデジタルゲーム分野及びパッケージゲーム分野）におきまして、新型コロナウイルス感染症の影響により、自宅でエンタテインメントを楽しむといった巣ごもり消費の傾向が強まり、ゲームの需要が高まるとともに、ダウンロード販売の増加が進みました。今後予定されている新しいプラットフォームの登場に関心が高まっているほか、新たなビジネスモデルやサービスによる収益機会の多様化等も進むことが想定され、さらには5Gやクラウドといったテクノロジーやインフラの発展に伴い、グローバルでのゲーム市場の活性化や拡大が期待されます。アミューズメント施設・機器市場につきましては、緊急事態宣言以降、各地方自治体による休業要請に応じて店舗の臨時休業を実施したことから、来場者数が大きく減少いたしました。緊急事態宣言解除後は順次営業を再開しておりますが、引き続き来場者数が回復するまでには一定の時間を要するものと想定されます。

リゾート業界におきましては、新型コロナウイルス感染症の影響による外出自粛や各国の渡航制限等により国内外の旅行需要が低下し、旅行者数が大幅に減少しております。なお、『特定複合観光施設区域整備法』にかかる施行令等が2019年4月より順次施行されており、2020年1月にカジノ管理委員会が発足されるなど、日本国内におけるIR（統合型リゾート）参入に向けた取り組みが進んでおりますが、政府による基本方針の策定については、新型コロナウイルス感染症対策を盛り込む必要が生じたため、公表時期は未定となっております。

このような経営環境のもと、当第1四半期連結累計期間における売上高は48,382百万円（前年同期比33.5%減）、営業損失は3,851百万円（前年同期は営業利益3,409百万円）、経常損失は4,099百万円（前年同期は経常利益2,372百万円）、親会社株主に帰属する四半期純損失は3,301百万円（前年同期は親会社株主に帰属する四半期純利益1,718百万円）となりました。なお、新型コロナウイルス感染症の拡大による緊急事態宣言を受けて実施した臨時休業期間中の固定費等2,563百万円を特別損失に計上しております。

セグメント別の概況は以下のとおりであります。

なお、文中の各セグメントの売上高は、セグメント間の内部売上高を含んでおりません。

また、当グループの報告セグメントとして従来「エンタテインメントコンテンツ事業」に含まれていたセガサミークリエイション株式会社の営む事業について、当第1四半期連結会計期間より「遊技機事業」に変更し、セグメント利益を営業利益から経常利益へ変更しております。当第1四半期連結累計期間の比較・分析は、変更後のセグメント区分に基づいております。セグメント情報に関する詳細は、11ページ「3. 四半期連結財務諸表及び主な注記(3) 四半期連結財務諸表に関する注記事項(セグメント情報等)」の「2. 報告セグメントの変更等に関する事項」をご参照ください。

《遊技機事業》

	前年同期 連結累計期間	当第1四半期 連結累計期間	前年同期比	
			増減	増減率
	百万円	百万円	百万円	%
外部売上高	17,191	2,706	△14,485	△84.3
セグメント間売上高	235	12	—	—
売上高合計	17,427	2,719	△14,708	△84.4
経常利益	994	△8,532	△9,526	—

遊技機事業では、PC/スマートフォン向けコンテンツを提供する株式会社サミーネットワークスの売上等を計上したものの、パチスロ遊技機、パチンコ遊技機ともに新作タイトルの販売がなかったことから、パチスロ485台(前年同期は17,930台)、パチンコ177台(前年同期は16,212台)の販売となりました。

以上の結果、売上高は2,706百万円(前年同期比84.3%減)、経常損失は8,532百万円(前年同期は経常利益994百万円)となりました。

《エンタテインメントコンテンツ事業》

	前年同期 連結累計期間	当第1四半期 連結累計期間	前年同期比	
			増減	増減率
	百万円	百万円	百万円	%
外部売上高	53,082	45,134	△7,948	△15.0
セグメント間売上高	158	275	—	—
売上高合計	53,240	45,409	△7,831	△14.7
経常利益	4,918	8,277	3,358	68.3

コンシューマ分野におきましては、新型コロナウイルス感染症拡大防止に伴う巣ごもり消費の影響が見られ、ゲーム本編(※)についてはリピート販売を中心に好調に推移し、販売本数は1,298万本(前年同期は649万本の販売)となりました。また、F2P(※)については、4月に配信を開始した北米版「ファンタジースターオンライン2」が好調なスタートを切るなど、堅調に推移しております。

※コンシューマ分野を以下3つのビジネスモデルに区分しております。

ゲーム本編	主に家庭用ゲーム機やPC向けのゲーム本編のディスク販売及びダウンロード販売等(追加ダウンロードコンテンツ販売は含まない)。
F2P	主にスマートフォンやPC向けの基本プレイ料金無料、アイテム課金制のゲームコンテンツの販売等。
その他	追加ダウンロードコンテンツ販売、他社タイトルの受託販売、開発受託、タイトル譲渡、プラットフォーム向けの一括タイトル提供、ゲームソフト以外の製品の販売、他。

アミューズメント機器分野におきましては、販売先であるアミューズメント施設の休業及び稼働低下に伴い、課金収入や機器販売の受注が減少し、低調に推移いたしました。

アミューズメント施設分野におきましては、各地方自治体による休業要請に応じて、店舗の臨時休業や時短営業を行いました。休業要請の解除に応じて、順次営業を再開しましたが、国内既存店舗の売上高は前年同期比で27.4%となり、大幅に減少いたしました。

映像・玩具分野におきましては、映像制作や配分収入に伴う収入を計上した他、玩具において定番製品を中心に販売いたしました。

以上の結果、売上高は45,134百万円（前年同期比15.0%減）、経常利益は8,277百万円（前年同期比68.3%増）となりました。

《リゾート事業》

	前年同期 連結累計期間	当第1四半期 連結累計期間	前年同期比	
			増減	増減率
	百万円	百万円	百万円	%
外部売上高	2,460	464	△1,995	△81.1
セグメント間売上高	15	8	—	—
売上高合計	2,475	473	△2,002	△80.9
経常利益	△1,661	△2,135	△473	—

リゾート事業におきましては、『フェニックス・シーガイア・リゾート』において、新型コロナウイルス感染症拡大防止の観点から、自主的に施設の休業などを行いました。足元では宮崎を中心とした九州域での営業活動を再開しておりますが、引き続き集客数の大幅な落ち込みが見られ、利用者数は前年同期比23.3%となりました。また、日本国内におけるIR参入に向けた費用が発生いたしました。

海外におきましては、PARADISE SEGASAMMY Co., Ltd.（当社持分法適用関連会社）が運営する『パラダイスシティ』において、新型コロナウイルス感染症の影響等により、1月～3月のドロップ額（テーブルにおけるチップ購入額）が前年同期比で89.2%、カジノ来場者数が前年同期比80.5%となる等、大幅な落ち込みが見られました。

※PARADISE SEGASAMMY Co., Ltd.は12月決算のため3ヶ月遅れで計上

以上の結果、売上高は464百万円（前年同期比81.1%減）、経常損失は2,135百万円（前年同期は経常損失1,661百万円）となりました。

(2) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明

2020年5月13日に公表した「2020年3月期決算短信〔日本基準〕(連結)」において、未定としておりました通期連結業績予想を公表いたしました。詳細については、2020年8月5日公表の「通期業績予想に関するお知らせ」をご参照ください。

2. サマリー情報(注記事項)に関する事項

(1) 当四半期連結累計期間における重要な子会社の異動

該当事項はありません。

(2) 四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用

(税金費用の計算)

当連結会計年度の税引前当期純利益に対する税効果会計適用後の実効税率を合理的に見積り、税引前四半期純利益に当該見積実効税率を乗じて計算する方法を採用しております。ただし、当該見積実効税率を用いて税金費用を計算すると著しく合理性を欠く結果となる場合には、法定実効税率を使用する方法によっております。

(3) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示

(会計方針の変更)

該当事項はありません。

(会計上の見積りの変更)

該当事項はありません。

(修正再表示)

該当事項はありません。

(4) 追加情報

新型コロナウイルス感染症拡大に伴う会計上の見積りについて

新型コロナウイルス感染症拡大に伴う政府による緊急事態宣言や各自治体からの休業要請を受け、アミューズメント施設などは一定期間、臨時休業や時短営業を実施いたしました。なお、実施した会計上の見積りについては、前連結会計年度の決算短信の(追加情報)に記載した、繰延税金資産の回収可能性の判断や固定資産の減損損失の判定等に用いた一定の仮定から重要な変更はありません。

しかしながら、新型コロナウイルス感染症拡大による影響は不確定要素が多く、今後、当グループの財政状態、経営成績に影響を及ぼす可能性があります。

3. 四半期連結財務諸表及び主な注記

(1) 四半期連結貸借対照表

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (2020年3月31日)	当第1四半期連結会計期間 (2020年6月30日)
資産の部		
流動資産		
現金及び預金	159,013	157,063
受取手形及び売掛金	40,408	24,564
有価証券	5,398	299
商品及び製品	8,218	9,761
仕掛品	20,235	24,157
原材料及び貯蔵品	18,554	22,094
その他	17,449	27,554
貸倒引当金	△302	△257
流動資産合計	268,976	265,238
固定資産		
有形固定資産		
土地	21,177	21,176
その他(純額)	65,472	64,040
有形固定資産合計	86,649	85,217
無形固定資産		
のれん	5,878	5,653
その他	12,090	12,917
無形固定資産合計	17,969	18,570
投資その他の資産		
投資有価証券	55,046	56,313
その他	30,078	29,293
貸倒引当金	△450	△441
投資その他の資産合計	84,673	85,164
固定資産合計	189,292	188,952
資産合計	458,268	454,190

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (2020年3月31日)	当第1四半期連結会計期間 (2020年6月30日)
負債の部		
流動負債		
支払手形及び買掛金	17,834	15,751
短期借入金	13,331	43,328
1年内償還予定の社債	10,000	—
未払法人税等	3,383	639
引当金	8,729	2,633
資産除去債務	101	101
その他	32,766	26,312
流動負債合計	86,147	88,768
固定負債		
社債	10,000	10,000
長期借入金	42,003	42,000
退職給付に係る負債	4,176	4,270
資産除去債務	4,847	4,868
解体費用引当金	420	420
その他	13,815	14,278
固定負債合計	75,263	75,838
負債合計	161,410	164,606
純資産の部		
株主資本		
資本金	29,953	29,953
資本剰余金	118,564	118,564
利益剰余金	206,334	198,326
自己株式	△53,555	△53,556
株主資本合計	301,296	293,287
その他の包括利益累計額		
その他有価証券評価差額金	4,470	6,502
繰延ヘッジ損益	△596	△818
土地再評価差額金	△1,109	△1,109
為替換算調整勘定	△8,480	△9,700
退職給付に係る調整累計額	△1,478	△1,471
その他の包括利益累計額合計	△7,193	△6,597
新株予約権	813	798
非支配株主持分	1,941	2,095
純資産合計	296,858	289,583
負債純資産合計	458,268	454,190

(2) 四半期連結損益及び包括利益計算書

第1四半期連結累計期間

(単位:百万円)

	前第1四半期連結累計期間 (自2019年4月1日 至2019年6月30日)	当第1四半期連結累計期間 (自2020年4月1日 至2020年6月30日)
売上高	72,734	48,382
売上原価	44,321	29,600
売上総利益	28,413	18,782
販売費及び一般管理費	25,003	22,633
営業利益又は営業損失(△)	3,409	△3,851
営業外収益		
受取利息	47	26
受取配当金	213	291
為替差益	166	—
投資事業組合運用益	128	84
その他	338	243
営業外収益合計	894	645
営業外費用		
支払利息	129	108
持分法による投資損失	1,223	595
為替差損	—	13
その他	578	176
営業外費用合計	1,931	894
経常利益又は経常損失(△)	2,372	△4,099
特別利益		
固定資産売却益	0	8
投資有価証券売却益	0	—
新株予約権戻入益	7	15
関係会社株式売却益	—	112
助成金収入	—	74
その他	0	—
特別利益合計	8	210
特別損失		
固定資産売却損	0	0
減損損失	17	0
投資有価証券売却損	97	—
新型コロナウイルス感染症による損失	—	2,563
その他	0	0
特別損失合計	116	2,564
税金等調整前四半期純利益 又は税金等調整前四半期純損失(△)	2,264	△6,453
法人税、住民税及び事業税	465	△3,304
法人税等合計	465	△3,304
四半期純利益又は四半期純損失(△)	1,799	△3,148
(内訳)		
親会社株主に帰属する四半期純利益 又は親会社株主に帰属する四半期純損失(△)	1,718	△3,301
非支配株主に帰属する四半期純利益	81	152

(単位：百万円)

	前第1四半期連結累計期間 (自 2019年4月1日 至 2019年6月30日)	当第1四半期連結累計期間 (自 2020年4月1日 至 2020年6月30日)
その他の包括利益		
その他有価証券評価差額金	△2,480	2,031
繰延ヘッジ損益	△3	△2
為替換算調整勘定	△1,501	123
退職給付に係る調整額	△19	4
持分法適用会社に対する持分相当額	△631	△1,560
その他の包括利益合計	△4,636	597
四半期包括利益	△2,837	△2,551
(内訳)		
親会社株主に係る四半期包括利益	△2,916	△2,705
非支配株主に係る四半期包括利益	79	153

(3) 四半期連結財務諸表に関する注記事項

(継続企業の前提に関する注記)

該当事項はありません。

(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)

該当事項はありません。

(セグメント情報等)

前第1四半期連結累計期間(自 2019年4月1日 至 2019年6月30日)

報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位:百万円)

	報告セグメント			計	調整額 (注)	四半期連結損益 及び包括利益 計算書計上額
	遊技機事業	エンタテインメント コンテンツ事業	リゾート事業			
売上高						
(1) 外部顧客に 対する売上高	17,191	53,082	2,460	72,734	0	72,734
(2) セグメント間の内部 売上高又は振替高	235	158	15	409	△409	—
計	17,427	53,240	2,475	73,143	△409	72,734
セグメント利益又は損失(△)	994	4,918	△1,661	4,251	△1,878	2,372

(注) 1 セグメント利益又は損失の調整額△1,878百万円には、セグメント間取引消去△0百万円、各報告セグメントに配分していない全社費用△1,878百万円が含まれております。全社費用は、主に提出会社におけるグループ管理に係る費用であります。

2 セグメント利益又は損失は、四半期連結損益及び包括利益計算書の経常利益と調整を行っております。

当第1四半期連結累計期間(自 2020年4月1日 至 2020年6月30日)

1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位:百万円)

	報告セグメント			計	調整額 (注)	四半期連結損益 及び包括利益 計算書計上額
	遊技機事業	エンタテインメント コンテンツ事業	リゾート事業			
売上高						
(1) 外部顧客に 対する売上高	2,706	45,134	464	48,305	77	48,382
(2) セグメント間の内部 売上高又は振替高	12	275	8	296	△296	—
計	2,719	45,409	473	48,602	△219	48,382
セグメント利益又は損失(△)	△8,532	8,277	△2,135	△2,390	△1,708	△4,099

(注) 1 セグメント利益又は損失の調整額△1,708百万円には、セグメント間取引消去5百万円、各報告セグメントに配分していない全社費用△1,714百万円が含まれております。全社費用は、主に提出会社におけるグループ管理に係る費用であります。

2 セグメント利益又は損失は、四半期連結損益及び包括利益計算書の経常利益と調整を行っております。

2. 報告セグメントの変更等に関する事項

(報告セグメントの区分方法の変更)

ゲーミング機器の開発において「遊技機事業」のシナジー効果をより推進することから、当第1四半期連結会計期間より、当グループの報告セグメントの区分として従来「エンタテインメントコンテンツ事業」に含まれていたセガサミークリエイション株式会社の営む事業を「遊技機事業」に変更しております。また、当社の役員賞与の業績連動報酬における評価指標として、持分法による投資損益等を含めた事業全体から当グループが経常的に得られる利益である「経常利益」を重要な目標値とするなどマネジメントアプローチの観点から、当第1四半期連結会計期間よりセグメント利益の測定方法を、「営業利益」から「経常利益」に変更しております。

なお、前第1四半期連結累計期間のセグメント情報については、変更後の区分方法により作成したものを記載しております。